

害対策本部のバックアップ施設として、防災無線などの設備を区役所と二重化し、情報収集などの役割を担っている。

阪神淡路大震災、東日本大震災など、過去に起こった地震を再現し、実際にその揺れを体験したり、煙の中での避難行動などの各種体験や訓練を通して、防災意識を高めることができる施設だった。



東京都 北区防災センター

公共施設包括管理業務を導入

○ファシリティマネジメントの推進について(千葉県我孫子市)

我孫子市では、提案型公共サービス民営化制度の提案である専門事業者による公共施設包括管理業務を平成24年4月から導入し、蓄積された点検・保守・更新の実績データを活用することで、公共施設の安全確保とともに財政負担の軽減および平準化を目指した保全計画を平成30年3月に策定し効率的な維持管理に取り組んでいる。

直接的には施設の所管課が施設を管理しているが、新たに立ち上がった資産経営課が財政面等をはじめ所管課を支援していることだった。



千葉県 我孫子市役所

市民福祉常任委員会

令和元年10月23日～25日
小林 誠、酒井 健、阿部銀次郎、森山 昭、笹川信子

誰もが居場所を見つけて気軽に利用できる新しいスタイルの図書館
○大和市文化創造拠点シリウスについて(神奈川県大和市)



神奈川県 大和市文化創造拠点シリウス

外観 自動貸出機

大和市文化創造拠点シリウスは、地下1階、地上6階建て、図書館を中心に、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場が入る複合施設である。

1階から5階まで書架が並び、シリウス内であれば、図書館の本は全館どこでも読むことが可能であり、各階に自動貸出機を配置している。また、市民にのんびりと過ごしてもらおう空間作りを進め、全館で950席以上の席を用意している。年間約300万人が来館する新しいスタイルの図書館である。シリウスは何といっても大きい。

○まとめ
防災・減災対策の取り組みについては、さまざまな災害についての状況分析から実際に災害が起きた場合の対策まで細部にわたり体制整備に努めていると感じた。全国トップクラスの財政力を有する厚木市の取り組みを行うことは困難であるが、ソフト面のより一層の充実、強化を図っていくことが重要であると感じた。



ころの医療センターなど中核病院が立地し、市立病院等とのネットワーク体制が構築されている医療都市の側面と社会福祉協議会を中心とした福祉ボランティアが活発な福祉のまちであると感じた。

地域の移動課題の解決に向けた自動運転車両による公道実証実験

○自動運転を核とした地域密着型モビリティネットワーク構築について(群馬県桐生市)

桐生市では、地域の移動課題解決に向けた取り組みとして、群馬大学と株式会社ミツバとの協働で自動運転車両による公道実証実験を行っている。令和元年5月に行われた実証実験では自動運転バスやミニバンなど複数の自動運転車両を用いて、市民も参加して行われた。自動運転技術が進み、誤差2センチメートルという高い精度の位置測定を可能としており、今後さらに研究が進み、自動運転技術が新たな移動手段として活用されることを期待している。群馬大学では、県外でも実証実験



群馬県 桐生市役所

をしており、機会があれば三条市でも特に山間部での自動運転の可能性について実証実験をやってもらいたいと感じた。

○まとめ

今回、所管課長も参加しての行政視察となった。議員側からの視点だけでなく、行政側からの視点も加わり、視察内容が深められたと感じた。また、視察先自治体の対応の仕方など視察テーマ以外でも学ぶべきものが多い行政視察だった。

経済建設常任委員会

令和元年10月30日～11月1日
山田富義、坂井良永、佐藤和雄、武石栄二、横山一雄、長橋一弘

○産業振興への取り組みについて(山形県米沢市)
米沢市では、米沢市中小企業振興条例や中小企業振興アクションプランを策定し、市内中小企業の活性化を

推進している。また、産学官連携についても工業分野において山形大学工学部と連携し、有機エレクトロニクスを活用した新たな産業振興に取り組んでいる。現地視察を行った「スマート未来ハウス」は、有機エレクトロニクス

に関する実証施設として建設され、設置20年後の住環境を研究する施設となっている。また、観光振興対策に力を入れていることも市の特徴の一つである。平成28年度に策定された第3期米沢市観光振興計画では、現状と課題をSWOT分析によって、強み・弱み・機会・脅威に分けて分析し、地域ガイドの向上やより選ばれる観光地米沢を目指している。



山形県 米沢市役所

市民行政・事業所の協力を軸とした雪対策

○雪対策について(秋田県横手市)

横手市では、平成30年3月に第2期総合雪対策基本計画が策定され、第1期の計画を引き継ぐ形として、「みんなで作る安全、安心な雪国横手」を基本方針としている。第1期は5カ年計画で策定していたが、第2期計画は令和2年度までの3カ年となっており、来年度に第3期基本計画ができる予定である。計画では、アクションプログラムを策定し、新規の目標、重点施策を含め、それを解決するために施策を行い、検証し

吹き抜けも広く、明るい。本よりも空間に目のいく施設であり、図書館を市民の居場所づくりと捉えて工夫を凝らしているところが印象的であった。
高齢者が地域で安心して暮らせる体制づくりを目指す
○介護健診ネットワークについて(茨城県笠間市)



茨城県 笠間市役所

笠間市では、高齢化が進む中、高齢者が地域で安心して暮らせる体制づくりに取り組んでいる。介護健診ネットワークは、市が保有する支援対象者の介護保険情報や見守り支援情報を本人の同意を得た上で、このネットワークに参加する関係機関に公開し、情報の共有を図るものである。登録者数は約9000人、居宅介護支援事業所や介護サービス提供事業所、医療機関や消防など約80の事業所が参加し、多職種間の連携と情報収集に要する業務の効率化が図られている。笠間市は、県立中央病院、県立こ



秋田県 横手市役所

ていくという形で進めている。学校単位の8つの地域ごとに市民委員会である地域雪対策連絡会をつくり、意見聴取をしながら、横手市全市レベルの雪対策協議会として進めている様子が見受けられた。

○まとめ

産学官連携の取り組みについて、市内には、山形大学、県立米沢栄養大学、県立米沢女子短大の3つの高等教育機関があり、県内での就職は、大学生10・8%、短大生40%の定着率になっているなど、人材確保の対策に関しては、効果が発揮されているように感じる。

また雪対策においても、行政支援だけでなく、地域住民同士の協力が欠かせないため、市民、行政、事業所が一体となって雪対策に取り組んでいる。三条市の雪対策も、一体化に向けての再構築・協力が必要だと感じた。なお、初日に予定していた福島県白河市については、台風19号の影響により中止となった。